

令和7年度全国学力・学習状況調査結果概要と改善策

【学力調査】

本調査は、子ども達の学力や学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証して改善を図るために行われます。

正答率が高い領域とその設問について

国語	数 学	理 科
【言葉の特徴や使い方に関する事項】の領域で 「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」設問	【関数】の領域で 「一次関数について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる」設問	【エネルギー】を柱とする領域で 「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる」設問
【話すこと・聞くこと】の領域で 「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」設問	【データの活用】の領域で 「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる」設問	【地球】を柱とする領域で 「露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる」設問
【読むこと】の領域で 「文章全体と部分との関連に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる」設問	【図形】の領域で 「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」設問	【生命】を柱とする領域で 「スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる」設問

正答率が低い領域とその設問について

【書くこと】の領域で 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にしてかくことができるかどうかをみる」設問	【数と式】の領域で 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」設問 「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」設問	【生命】を柱とする領域で 「水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる」設問
【話すこと・聞くこと】の領域で 「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話しの構成を工夫することができるかどうかをみる」設問	【関数】の領域で 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」設問	【粒子】を柱とする領域で 「塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる」設問
【読むこと】の領域で 「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」設問 「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」設問	【図形】の領域で 「証明を振り返り、照明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる」設問 「統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる」設問	【エネルギー】を柱とする領域で 「仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電機回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる」設問

調査結果と今後の取組

【調査結果から読み取れる課題】

文脈や基本的な文章の構成を理解する力や、既習により、解き方・考え方が確実に定着している問題に対する理解はあるものの、どの教科にも共通する課題として、複数の資料から得られる情報を整理し、根拠を明確にしてまとめ、分かりやすく文章で表現する力の育成が挙げられます。

【本校の取組】

本校では朝学習時間に「読み方レスキュー」を活用し、読み解く力を身に付ける学習を充実させ、継続して取り組みます。また、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ります。生徒一人ひとりが課題の解決に向けて自ら考え、取り組み、その考えを深め、広げられるよう、他者との情報交換や異なる視点からの考察を促すなど、学習課題や活動を工夫して取り組みます。

【質問紙調査】

本調査は、特に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に重点を置いた調査です。

肯定的な回答の割合が高い設問

○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	【規範意識】
○人の役に立つ人間になりたい	【自己有用感】
○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	【幸福感】
○分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている	【学習習慣】
○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	【主体的・対話的で深い学び】

昨年度と比べ肯定的な回答が大幅に増加した設問

○先生は、あなたのよいところを認めてくれている	【自己有用感】
○困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	【幸福感】
○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う	【協調性】
○友達関係に満足している	【幸福感・自己肯定感】
○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	【社会性・コミュニケーション能力】

肯定的な回答の割合が低い設問

○家庭学習時間の短さにつながる質問について	【学習習慣】
○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	【学習習慣】

【質問調査等の結果に反映されていると考えられる本校の教育活動について】

旭川小学校との連携・一貫教育のもと、さまざまな実践を重ねてきました。その結果、生徒の規範意識や自己有用感の向上、そして幸福感の醸成につながっています。生徒たちが主体的な学習者として、自ら課題解決に向けて行動する意識も着実に高まっています。また、一人ひとりが安心して過ごせる居場所づくりを進め、ニーズに応じた「特別支援教育」や「校内教育支援センター」の充実によって、確かな学びを保証してきました。今後も、生徒の主体性を尊重しながら、地域や保護者の皆様と一体となり、特色ある教育活動を推進してまいります。そして、「いじめを許さない、世界一優しい学校」を目指します。

- ①児童生徒が主語になる「交流活動」
- ②他者と協力して、考えを広げ・深める「協働的な学び」
- ③自己選択・自己決定による「個別最適な学び」
- ④チーム担任制
- ⑤タブレットを活用した「主体的な学び」
- ⑥いじめゼロを目指す「人権教育」
- ⑦一人一人の生徒に寄り添う「教育相談の充実」
- ⑧読解力育成のための「読み方レスキュー」
- ⑨自らの学びを形成する「スタディープランナー」
- ⑩生徒が地域創生の担い手となる「地域学校協働活動」や「総合的な学習の時間」の取組

など